

平成 16 年度
近世史料館春季展

金沢の歌舞伎と劇場

期間：平成 16 年 4 月 6 日 (火) ~ 6 月 6 日 (日)
場所：金沢市立玉川図書館 近世史料館 展示室



金沢市立玉川図書館近世史料館

金沢の歌舞伎と劇場

歌舞伎は、慶長 8 年(1603)に京都において出雲阿国が創始したとされています。以来 400 年の歴史を刻み、日本文化を代表する芸能となりました。

江戸時代、歌舞伎は時代の先端を行く芸能・娯楽として全国に普及し、三都のみならず、金沢、名古屋、仙台などの城下町にも常設劇場が設けられました。

金沢は三都と並ぶ都市として、江戸・大坂などの役者も多く来演しています。一例としては、すでに明暦 2 年(1656)には江戸の日向大夫が金沢で公演を行っています。興行の盛衰は藩の規制によるところが大きで、取締りと緩和が繰り返され、金沢における隆盛は中期以降のこととなります。後期には、経済振興の一環として常設小屋が許可されますが、天保 9 年(1838)に禁令が出され、藩末から明治期に至っての復興まで一時歌舞伎の火が消えることとなります。

金沢において歌舞伎・演劇が活況であった時代の様相の一端を、戦前の各種劇場の盛況さとも合わせ、本展示から見ていただきたいと思います。

劇場

戯場図

21. 7 - 122

川上芝居座を描いたもの。鳥瞰図・正面図などと共に柵席配置・代金・番付なども記される。

金沢市浅野川稻荷座界限図

090 - 954

金沢繁昌寿娛六

K7 - 1208 - 1

明治35年(1902)1月1日発行、金沢新聞55号附録。
福助座、稻荷座記載あり。

金沢勝地賑双六

K7 - 1208 - 2

櫻馬場芝居記載あり。

入場券

金沢新報社 スメル館愛読者優待半額入場券

090 - 1053 - 86

香林坊大活倶楽部普通席半券

090 - 1053 - 87

北国夕刊新聞社 第二菊水倶楽部読者優待入場券

090 - 1053 - 88

香林坊下第一菊水倶楽部入場券

090 - 1053 - 89

アインシュタイン相対性原理映画普通券半券

090 - 1053 - 90

北国劇場

- 各映画館及び劇場御遺族招待券 090 - 1053 - 91
 金沢市主催。
 金沢劇場、スメル館、松竹座、豊洲館、昭和劇場、玉木座、立花座
- 帝国座 天勝一座御優待券 090 - 1053 - 93
- 帝国座 日本少女歌劇座優待券 菅原神社所蔵
- 尾山倶楽部一二等特別優待券 090 - 1053 - 98
- 尾山倶楽部 市村羽左衛門大一座大割引券 菅原神社所蔵
- 尾山倶楽部 阪東壽三郎他大一座特別優待券 菅原神社所蔵
- 木町定席 090 - 1053 - 101
- 尾山座二等券 090 - 1053 - 104
- 豊洲館特別優待券 090 - 1053 - 154
- 金沢香林坊立花座大入袋 中山家文書 920 - 38

藩政と歌舞伎

政鄰記 津田政鄰著

16. 28 - 11 - 1

明暦2年(1656)8月。この年、金沢の東本願寺別院で江戸芝居が興行され、記録的にも古い例である。

金沢俳優伝記

16. 97 - 9

元和3年(1617) 12月24日

川上芝居一件抜書

16. 97 - 10

文政元年(1818) 歌舞伎興行が公許され、天保9年(1838) 禁止されるまでの記録をまとめたもの。川上新町(現菊川1・2丁目)に小屋が建てられ、料理屋、茶屋も立ち並び賑わっていた。

川上芝居書類九種

16. 97 - 8

文政元年(1818) 9月

役者

たのしみ草紙

中山家文書 920 - 32

俳優芸評

K7 - 370

金沢俳優評聞見立并三都惣役者大見立

中山家文書 920 - 1

明治14年(1881) 1月

嵐冠十郎隠退興行番付

中山家文書 920 - 36

嵐冠十郎(1853~1925) 屋号具足屋、本名河合理之助。安政4年(1857) 父(三世冠十郎)と共に金沢に移る。一時京都に戻り、璃之助を名乗る。明治3年(1870) より金沢を本拠に活躍する。

嵐冠十郎引舞台披露状

中山家文書 920 - 26

大正12年(1923) 卯月吉日

芝居筋書・舞台

当梅鉢金城奇談

K7 - 165

明治26年(1893) 6月22日

高根雪伊達実記

K7 - 164

本朝廿四考色読販

K7 - 162

東山桜莊子

K7 - 507

浅の川芝居番組案内

中山家文書 920 - 14

楽屋通

中山家文書 920 - 70

芝居番付

匂欄番附

K7 - 253

巳4月吉日

浅野川馬場芝居番組等

K7 - 20

明治7年(1874) 3月吉日

金沢小芝居番附

21. 7 - 121

未2月

絵番付・ポスター

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 芝居番附 川上末吉芝居
明治8年(1875)9月 | 090 - 942 - 57 |
| 芝居番附 卯辰末吉座
明治24年(1891)3月 | 090 - 942 - 10 |
| 芝居番附 戎座
明治22年(1889)2月吉日 | 090 - 942 - 6 |
| 芝居番附 戎座
明治24年(1891)4月吉日 | 090 - 942 - 7 |
| 芝居番附 福助座
明治29年(1896)8月13日 | 090 - 942 - 35 |
| 芝居番附 第一福助座
明治38年(1905)4月吉日 | 090 - 942 - 126 |
| 第一福助座芝居番付
明治40年(1907)1月10日 | 野崎氏所蔵 |
| 第一福助座芝居番付
明治41年(1908)4月9日 | 野崎氏所蔵 |
| 香林坊第一福助座芝居番付
大正2年(1913)3月31日 | 中山家文書 920 - 25 - 3 |
| 芝居番附 第四福助座
明治43年(1910)1月9日 | 090 - 942 - 131 |

- 芝居番附 稻荷座 090 - 942 - 110
明治 35 年(1902) 1 月 26 日
- 芝居番附 稻荷座 090 - 942 - 116
明治 35 年(1902) 10 月 8 日
- 芝居番附 稻荷座 090 - 942 - 121
4 月 15 日
- 芝居番附 尾山座 090 - 942 - 155
明治 43 年(1910) 4 月 21 日
- 芝居番附 尾山俱樂部 090 - 942 - 169
寅歲元旦
- 芝居番附 尾山俱樂部 090 - 942 - 172
5 月 23 日
- 歌舞伎ポスター K7 - 970
大正 6 年(1917) 2 月 10 日 北国劇場
- 芝居番附 北国劇場 090 - 942 - 166
11 月 24 日
- 芝居番附 大和座 090 - 942 - 160
明治 41 年(1908) 6 月 21 日
- 芝居番附 寿座 090 - 942 - 164
2 月 8 日、9 日

金沢の劇場略史

	劇場名	所在地	公演期間
1	相生町芝居	金石の町はずれの海辺	幕末～明治2年4月
2	あたご下ニテ	(現)白菊町か?	明治4年3月開場～
3	粟ヶ崎芝居	粟ヶ崎遊園地内	大正4年開場～昭和8年
4	卯辰山芝居	卯辰山上	明治2年～
5	東山芝居	卯辰山	明治3年開場～明治4年移転
6	浅野川馬場芝居	東馬場町150番地(現)東山3丁目27番地	明治4年6月移転・開場～明治16年改称
7	戎座	東馬場町150番地(現)東山3丁目27番地	明治17年2月改称開場～明治28年6月取り壊し
8	大野芝居	金石	
9	川上末吉芝居	川上新町	明治4年6月新築～明治14年移転改称
10	卯辰山末吉座	東山1丁目 卯辰神社境内	明治15年移転開場～明治30年廃座 *なお、一時尾山神社脇に移った時あり
11	かじ町八幡御社内	(現)此花町11番地	明治5年8月～明治6年5月
12	川上南芝居		明治4年再築・開場～明治7年
13	香林坊福助座	藪の内	明治26年4月～大正6年3月30日改称
14	中央館	藪の内	大正7年12月改称・開場～大正10年8月改称
15	五郎島芝居	五郎島	明治5年～明治6年
16	犀川上芝居(犀川馬場先)		明治5年3月～明治6年3月
17	第四福助座	下新町(橋場町より西入ル右側)	明治42年11月新築・開場～昭和8年廃座
18	並木町稻荷座	並木町	明治30年6月新築・開場～明治37年1月改称
19	尾山座	並木町	明治37年新築・開場～昭和2年
20	尾山倶楽部		昭和2年5月改築・開場～昭和19年
21	尾山クラブ		昭和21年改称～昭和25年12月(転業)
22	並木町愛宕座	並木町	明治30年～
23	西御影町大黒座	西御影町(御影橋やや上流 犀川神社付近)	明治3年新築・開場～明治19年12月移転
24	北国劇場	白菊町香林坊下	大正2年8月新築・開場～大正9年7月30日改称
25	帝国座	白菊町香林坊下	大正9年8月改称・開場～昭和14年12月改称
26	宮の越浜ニテ	宮の越(金石)	明治4年開場～明治6年
27	大和座	金沢駅前(現)此花町	明治41年6月開場～明治42年3月廃座

* 4→5→6→7、9→10、13→14→松竹座、18→19→20→21→北国第一劇場、24→25→菊水、と変遷

江戸後期 金沢の芝居興行地一覧（安永4年～明治4年）

興行地	興行年月・興行内容
春日神社境内 (現小坂神社)	安永4年8～12月、木遣狂言（浄瑠璃芝居）興行。 安永5年、芝居興行。天明5年、操り人形。
春日山芝居 (山ノ上町)	文政2年～文政3年、上方役者の芝居。春日神社と 同一かもしれない。
卯辰八幡社	安永6年5月、木遣狂言興行。天明5年6月、操り 人形。文政3年8月～天保11年、芝居興行。安政5 年11月～安政6年3月、芝居興行。
愛宕町芝居	安政6年、万延元年・2年芝居興行（東新地廓にて）。 明治3年、東新地芝居興行。
妙義谷芝居	天保8年頃、俠客綿津屋政右衛門により上方芝居興 行。
卯辰芝居座	天保11年7月～11月、芝居興行。
野町神明社	天明5年、操り人形。文化10年、踊狂言興行。天保 13年、芝居興行。
三社芝居	興行年不詳。天保3年秋、長田天神社にて芝居興行。
大豆田	文化10年10月、犀川川下にて大芝居。
乾貞寺 (浅野川川除町)	文化10年、踊狂言（京の三桝小源太一座）。
愛染院	天明4年2月、寺費捻出のため芝居興行。
宝久寺河原 (宝船寺馬場下)	文政元年12月～文政2年、座本尾上虎吉の芝居興行。 万延元年～文久3年、犀川馬場先芝居の名で、沢村半 十郎らが興行。
川上芝居	文政2年5月～天保9年7月、20年にわたり芝居興 行。芝居小屋は拡充され間口13間奥行き31間半あつ た。周囲に茶屋18軒あり町会所の支配下におかれた。 安政6年12月～文久2年、座本中村芝加十郎ら芝居 行う。
川上北芝居	文政4年8月～文政6年8月 座本藤川一松の芝居 初興行、のち操り浄瑠璃、からくり水芸の小屋とな る。川上芝居と同じ木戸内で興行。
元車芝居	安政5年11月より、犀川川下で初興行。安政6年ま で番付あり。
十一屋芝居	安政6年5月に興行始まる。万延元年まで番付あり。
鍛冶八幡社	万延元年7月～文久元年、五社興行と名乗り座本沢 村半十郎ら芝居行う。
卯辰山芝居 (東山芝居)	明治2年～明治4年、卯辰山末広町にて座本中村芝 加十郎ら芝居行う。茶屋9軒あり。
浅野川桜馬場 芝居	明治4年6月～明治28年、卯辰山芝居の小屋を移し て芝居興行。茶屋10軒並ぶ。のち香林坊戎座へ引き 継ぐ。
川上末吉芝居 (川上南芝居)	明治4年6月～明治14年、川上芝居の跡をうけて芝 居興行するも明治14年大雪で小屋大破、尾山神社脇 の金谷館に移り、卯辰末吉座・大国座に引き継がれ る。
西新地芝居	明治元年～明治5年、芝居興行。
東新地芝居	明治3年、芝居興行。
西御影町芝居	明治3年8月～（明治13年焼失・再開）～明治19年、 芝居興行、のち大国座となる。

(注) 副田松園『金沢の歌舞伎』、牧孝治編「郷土の芝居小屋年表」(『郷土の歌
舞伎展目録』1976年)を参考に作成した。演目等は『石川県史資料近世編(4)、
芝居番付四』の「芝居小屋別演目等一覧」が詳しいので参照されたい。

「番付で読む江戸時代」より